目次：

まえがき

本書を読み解く上でのキーワード

１.「天變頻示、凶事間聞」とは何か

はじめに

１―１：自然現象を記録する意義とは何か

～何故、気象現象を書き留めたのか～

１―２：夏の生活困難　～「暑熱」地獄～

１―３：雷鳴と天

１―３―１：穢気（えげ）と発雷

１―４：人魂と気候変動

１―５：落雷と円勝寺九重塔の焼失

１―６：大風

１―６―１：高潮　―亡国の殃（わざわい）

１―７：大雨

１―８：大雨と卜（うらない）

１―９：神泉苑に於ける請雨と大雨

１―１０：祈雨・請雨、止雨祈願の記録とその特質

１―１１：法会と雨脚　～雨儀と晴儀～

１―１２：降雪と寒さ　～暑熱の対極にあるもの～

１―１３：降雹

１―１４：治承４年（１１８０）４月２９日の異変

１―１５：赤気（せっき）

１―１６：仁平元年・久安７年（１１５１）正月２６日付け近衛天皇の詔に見る対気象観

１－１７：地震発生と風雨の災・難

１―１８：異損法と気象災害

１―１９：気象の異変と動植物

１―２０：寛喜の飢饉と気象現象

１―２１：気象現象と心神

１―２２：建物の「顚倒」と気象現象

１―２３：天文現象と気象の動向

おわりに

註

２.「今昔物語集」に見る気象現象と災異

はじめに

註

２―１：巻第十九「住（スミシ）河ノ邊（ホトリ）ニ僧、値（アヒテ）洪水ニ弃（ステ）子ヲ助ケタル母ヲ語（コト）　第廿七」に見る高潮の脅威

２―２：巻第二十「出雲寺ノ別當浄覚、食父成鯰肉得現報（チチノナリシナマヅノシシヲクラハムトシテゲンポウヲエ）忽ニ死ニタル語（コト）　第卅四」に見る鯰と暴風

２―３：巻第二十二「高藤ノ内大臣ノ語（コト）　第七」に見る「雷電霹靂（ライデンヘキレキ）」観

２―４：巻第二十四「高陽ノ親王、造（ツクリテ）人形（ヒトノカタチ）ヲ立（タテタル）田ノ中ニ語（コト）　第一」に見る「天下（テンガ）旱魃」

２―５：巻第二十「高市（タケチ）ノ中納言、依（ヨリテ）正直（シヤウジキ）ニ感（カンゼシメタル）神ヲ語（コト）　第四十一」に見る「天下旱颰（魃）」

２―６：巻第二十六「美濃ノ国ノ因幡ノ河、出水流入（ミヅイデテヒトヲナガセル）語（コト）　第三」に見る「水災害」と「共助」

２―７：巻第二十八「越前ノ守為盛、付（附）六衛府官人（ロクエフノクワンニンヲシタガヘタル）語（コト）　第五」に見る夏季の困難
～食中毒と旱魃と風流（フリウ）～
２―８：巻第三十一「讃岐（サヌキ）ノ国ノ満農（マノ）ノ池頽（クヅ）シタル国司ノ語（コト）　第廿二」に見る旱魃と人心
２―９：巻第三十一「近江ノ国ノ栗太（クルモト）ノ郡ノ大キナル柞（カシ）ノ語（コト）　第三十七」に見る大木と気象の異変
おわりに
参考文献表
あとがき
註
注記
附記
初出一覧
著作者略歴
広告
奥付